

参議院選挙は棄権せず一票の行使を

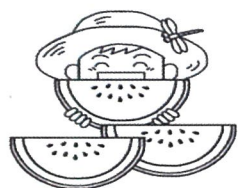
参議院選挙が始まりました。投票日は21日ですが、期日前投票を利用される方も多いと思います。消費税増税やマクロ経済スライドによる年金減らしなど、私たちの暮らしに直結するのが政治の在り方そのものです。ぜひ、棄権せずに大切な一票を行使しましょう。

6月議会報告

通常なら、すでに終わっている6月議会が今年には市議会の改選があり、5月に臨時議会が開会されたことも影響して、7月1日から定例会が始まりました。

で可決された市民会館の16億円の増額は3回目の入札で落札業者

が決まり、今議会で追加議案が提出されます。さらに、新たなメガソーラー計画など、市民環境への影響が懸念される事案も出ています。議会は23日まで。6人で力を合わせて議会審議に臨んでいます。ぜひ、傍聴やインターネットのライブ中継でご覧ください。



森下さち子 一般質問

市職員の健康問題について

病気で休む職員の増加が目立っていることから、職員の健康問題について取り上げました。

国が進める行政改革の下で、市場原理に基づく考え方が基本となり、和歌山市でも正規の職員がどんどん減らされてきました。削減された分は非常勤職員やアルバイト職員に置き換えられ、窓口業務をはじめ多種にわたって非正規職員が担っています。しかし、災害の多発や市民ニーズの多様化など、

むしる業務量は増えていきます。職員の病休も増加しており、このまま人員削減を続けることは市民へのサービスを低下させることにつながりかねません。超過勤務の実態をつかみ、必要な職員の増員をはじめ公務労働として位置づけることを求めました。

総務局長は、職員の病休に至るまでの過程で、早期発見できるような相談体制をとっていること、また職員からの声を聴くことは大切であり、それぞれの職場における実態を聞き取るようにすると答えました。しかし、人員増について市長は、再任用や非常勤職員を

含めた全体の運用を考えるとの答弁でした。

ごみ問題について

4月から家庭ごみの収集について民間委託を増やしたことにより、収集時間の大幅な遅れが生じ、市民に不安を与えている問題について取り上げました。

和歌山市は粗大ごみ、事業系ごみに続いて家庭の一般ごみについても民間委託を進めてきました。委託率はごみ総量の27%から始まり、50%へ広げ、さらにこの

(裏面に続く)



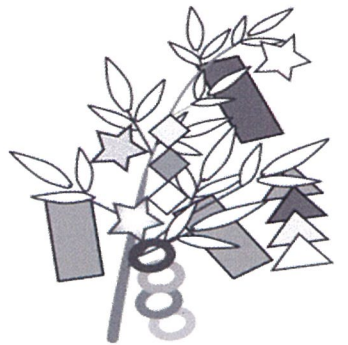
6月議会報告

森下さち子 一般質問

(表面より続き)

4月は70%へと増やしました。今回の時間の遅れはそのことが大きな原因です。生ごみを含む一般ごみの収集が2時を過ぎても来ない、資源ごみは夕方になっても放置されている、自治会で掃除当番に当たっているが、掃除できないなど800件を超える苦情が寄せられたということです。委託業者はごみ収集が初めてという従業員も多くあり、収集の仕事に慣れていない上に、従業員の入れ替わりが激

しく固定しない化し、ないといメッうデトが



あります。一方、市の直営の職員は新人からベテランまで年齢層が豊かで技術の継承が図られます。さらに、これらのごみ行政のあり方についても、循環型社会の形成という政策の立案と実行など、職員の果たす役割はとても大きいといえます。ごみ収集業務は、その入り口であり地域に熟知する公務労働として大切な役割を果たします。

☆無料法律相談

岡崎の森下さち子事務所にて
 7月17日(水) 13:30~30日(火) 18:00~
 8月19日(月) 13:00~
 ※8月の相談日は一日のみです。
 ◆事前予約をお願いします。
 市役所議員団控室 森下まで
 Tel 435-1113

私は不安定要素を含む委託を見直し、直営の職員を増やすよう求めました。市長はごみ収集の役割は衛生環境の保障など大きいと認め、これ以上の委託は考えていないとしつつも、70

%の委託率は適正だとして、環境整備員(市職員)の在り方について検討するということ答えにとどまりました。

「和歌山市に中学校全員給食を」 署名にご協力を

中学校の全員給食が実施されました。

現在、和歌山市の中学校給食は1カ月ごとに注文する「ランチボックス(デリバリー方式)」で、利用している生徒は全体の14%です。



「和歌山市に中学校全員給食を」署名にご協力ください。署名用紙が必要なのは森下さち子または、日本共産党北部地区委員会(432-1622)まで。



子どもを虐待して死なせてしまうという例が後を絶ちません。また、いじめなどを苦にして自ら命を絶つということも、毎日のように報道されます。こんなニュースを目に、耳にするたびごとに、「どの子ども大切にされて当たり前」という概念が、本当の意味で確立されるのはいつのことなのか、と深く深くため息をついてしまいます。北欧では極寒の地を生き抜く知恵としてもごく自然に一人一人が大切にされているのだと聞いたことがあります。しかし、それは自然にそうなったのではなくて、人々のたゆまぬ努力が“自然に”というところまでに実を結んだのでしょう。独りでは子育てできません。私自身も多くの方に助けられてきました。今年10月19日、フィンランドの子育ての在り方を学ぼうと講演会を企画しています。また、改めてお知らせします。

こどもピースフェスタ 2019

8月10日(土)
10:00~15:00

ビッグ愛1階展示ホール

